

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2002-142867

(P2002-142867A)

(43)公開日 平成14年5月21日(2002.5.21)

(51)Int.Cl.

A 46 B 15/00

A 61 C 17/00

識別記号

F I

A 46 B 15/00

A 61 C 17/00

テ-マコ-ト(参考)

K 3 B 2 0 2

L

審査請求 未請求 請求項の数4 書面 (全3頁)

(21)出願番号

特願2000-376670(P2000-376670)

(22)出願日

平成12年11月6日(2000.11.6)

(71)出願人 500564954

森 健也

栃木県宇都宮市針ヶ谷町504-9

(72)発明者 森 健也

栃木県宇都宮市針ヶ谷町504-9

(74)代理人 100064403

弁理士 福田 尚夫

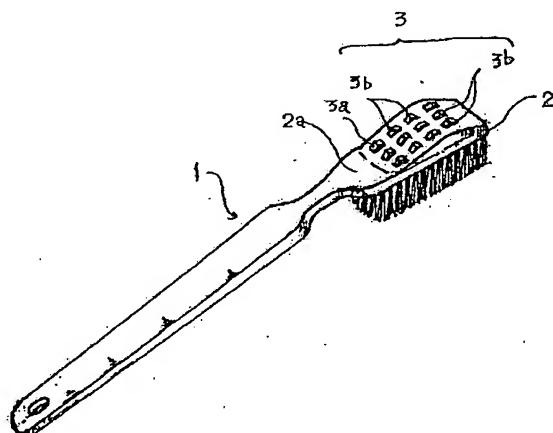
Fターム(参考) 3B202 AA02 AA06 EB17 EB18 GA00

(54)【発明の名称】 口臭除去歯ブラシ

(57)【要約】

【課題】 口腔内を心地よく刺激し、特に口腔壁、舌面をソフトに掠過することにより口臭の原因である食べ残、舌苔を取除き、口臭の発生防止に著効のある歯ブラシを提供する。

【解決手段】 歯ブラシ本体1のブラシ台2の背部側2aに、口腔壁ないし舌面にソフトに当たる鈍角 α を成す傾斜面3aを有する掠過突部3を一体的に設けて成る口臭除去歯ブラシ。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 歯ブラシ本体（1）のブラシ台（2）の背部側（2a）に、口腔壁ないし舌面にソフトに当たる掠過突部（3）を一体的に設けて成る口臭除去歯ブラシ。

【請求項2】 掠過突部（3）が、口腔壁ないし舌面に対し鈍角 α を成す傾斜面（3a）有する請求項1記載の口臭除去歯ブラシ。

【請求項3】 掠過突部（3）が、突部群（3b）の集合で構成される請求項1又は2記載の口臭除去歯ブラシ。

【請求項4】 掠過突部（3）が、その頭部エッジの幅方向に複数の切込み（3c）を設けて成る請求項1又は2記載の口臭除去歯ブラシ。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 この発明は、主として口腔壁、舌面をソフトに擦ることにより口臭の原因である食べ渣、舌苔を取除き、口臭の発生防止に役立つ歯ブラシに関する。

【0002】

【従来の技術】 口臭の発生が、胃病や糖尿病などの内蔵疾患によるほか、口腔の汚れ（食べ渣など）によることは周知のことながらあるが、舌苔に付着する細菌類が関与していることについては余り知られていない。最近、舌苔を柔らかいブラシで軽く擦ることが注目されつつあるが、未だ普及しているとは言えない。別のブラシを用意する煩わしさもさることながら、柔らかいとはいえばラシによる掠過は、敏感な舌の粘膜に刺激を与え過ぎて傷つけてしまうことが間々ある。そして味蕾（味を感じるところ）の負傷は、暫くの間不快な食事を強いられることになる。そして本発明者の知る限りでは、ブラシ以外に舌苔を擦るのに適切な道具は見当たらない。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 本発明は、従来のかかる実情に鑑みてなされたもので、一本のブラシに、口腔壁、舌面を傷付けることなく掠過する機能を附加して、口臭の原因である食べ渣、舌苔を取除き、口臭の発生防止に著効のある歯ブラシを提供する。

【0004】

【課題を解決するための手段】 上記目的を達成するため、本発明は、歯ブラシ本体1のブラシ台2の背部側2aに、口腔壁ないし舌面にソフトに当たる掠過突部3を一体的に設けて成る口臭除去歯ブラシである。

【0005】 また上記構成において、掠過突部3が、口腔壁ないし舌面に対し鈍角 α を成す傾斜面3a有する口臭除去歯ブラシである。

【0006】 さらに上記各構成において、掠過突部3が、突部群3bの集合で構成される口臭除去歯ブラシである。

【0007】 そしてまた、掠過突部3が、その頭部エッジの幅方向に複数の切込み3cを設けて成る口臭除去歯ブラシである。

【0008】

【実施例1】 図1、図2において、1が歯ブラシ本体、2がブラシ台で、そのブラシ台2の背部側2aに、口腔壁ないし舌面に対し鈍角 α を成す傾斜面3aを有する多数の突部群3bの集合で構成される掠過突部3を一体的に設けて構成される口臭除去歯ブラシである。

【0009】

【実施例2】 図3、図4において、1が歯ブラシ本体、2がブラシ台で、そのブラシ台2の背部側2aに、口腔壁ないし舌面に対し鈍角 α を成す傾斜面3aを有するとともにその頭部エッジの幅方向に複数の切込み3cを設けて成る掠過突部3を一体的に設けて構成される口臭除去歯ブラシである。

【0010】

【発明の作用並びに効果】 今、本発明に係る口臭除去歯ブラシを使用するには、図5に示すように、歯ブラシ本体1の柄を握って、ブラシ台2を天地させて背部側2aを舌面に当てる。そして柄を前後に繰返し動作して背部側2aに形成された掠過突部3で舌面を軽く掠るようにする。口腔壁を掠過する場合も同様の動作とする。

【0011】 すると、その掠過突部3が舌面に対し鈍角 α を成す傾斜面3aを有する多数の突部群3bの集合で構成される掠過突部3、あるいは傾斜面3aの頭部エッジの幅方向に複数の切込み3cを設けて成る掠過突部3により、舌面が柔らかく掠られて、味蕾を傷付けることなく舌苔が徐々に取り除かれる。口腔壁を掠過した場合には、口腔壁の汚れを除去とともに爽快な刺激が与えられる。

【0012】 以上から、本発明ブラシによれば、一本のブラシの使い分けで本来の歯ブラシと口臭予防・除去の機能を兼ねる便利さがある。そして、口腔内を心地よく刺激し、特に口腔壁、舌面をソフトに掠過することにより口臭の原因である食べ渣、舌苔を抵抗なく取除き、口臭の発生防止により快適な生活、人付き合いを可能にする。

【図面の簡単な説明】

【図1】 実施例1の斜視図

【図2】 同上側面図

【図3】 実施例2の斜視図

【図4】 同上側面図

【図5】 使用状態を示す斜視図

【符号の説明】

1 歯ブラシ本体

2 ブラシ台

2a 背部側

3 掠過突部

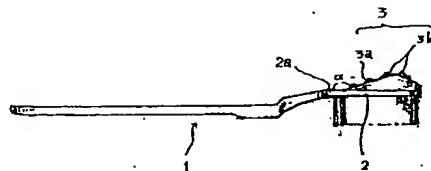
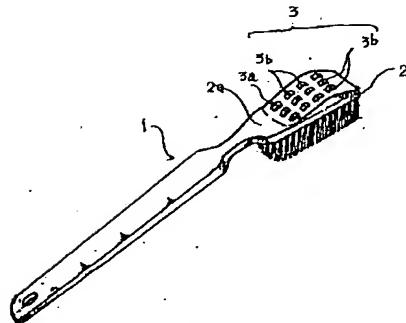
α 鈍角

3 a 傾斜面
3 b 突部群

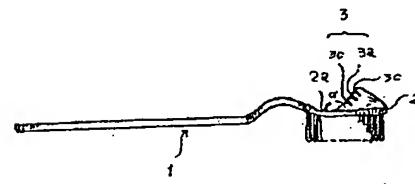
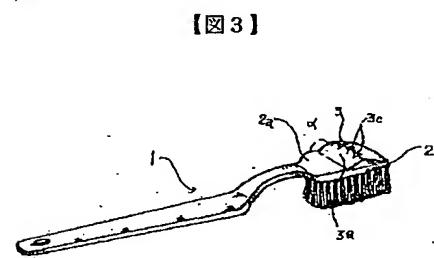
3 c 切込み

【図1】

【図2】



【図4】



【図5】

